

## 2024年度 城南学園中学校・高等学校 学校評価のまとめ

## 1 自己評価

(1) 組織 学校評価委員会（校長、高校教頭、中学校教頭、事務局長、学校評価委員会担当教諭）

(2) 開催 2025年3月3日（月）

(3) 評価のために使用した資料

① 2024年度学校教育診断の結果（概要は資料1）

・実施：2024年12月

・対象：中学校・高等学校の全生徒、在校生の全保護者、全常勤教員

② 生徒による授業評価の結果

・第1回：2024年7月

・第2回：2024年12月

③ その他

・「2024年度 教育の基本方針と取り組みの重点」（資料2）、校内各組織の総括（目標の達成状況）、生徒収容状況、進路決定状況、出席統計、部活動入部状況・活動実績等

(4) 内容

① 上記資料をもとに、年度当初に教職員に示した「教育の基本方針と取り組みの重点」（学校教育目標）について自己評価を行った。（下表）

② 自己評価に基づき学校関係者評価委員会の資料を作成した。

(5) 自己評価の結果（3月末時点で修正）

目標と取り組みの重点（P）	取り組みの状況（D）	自己評価（C）
<b>1 学校の全体像に関わって</b> ① 10年先を見通した学校の将来像について検討する。	① スクールポリシーを策定。各校種連携や高短・高大接続、広報戦略などについて議論。 2025年度より学校週五日制実施を決定し、その導入に向けての準備を行った。	① 概ね達成した
② キャリアデザインコースの起ち上げに向け準備を進める。	② コースとしての取り組みの詳細を決定。	② 概ね達成した
③ 建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの充実に努める。	③ 中学校の「10×10プラン」の実施。各コース、学年の当初目標に「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を掲げ、取り組みを進めた。	③ 前進した
④ 一人一台タブレットを活かした教育を推進するとともに、業務の改善を図る。	④ ICT教育の推進を継続。校務支援システム（シームス）、教育プラットフォーム（クラッシー）のさらなる活用。	④ 前進した

<p>⑤生徒への効果的な教育活動実現のための働き方改革を推進する。</p>	<p>⑤教員が本来の教育活動に専念できるよう、業務改善を進めた。 2025年度より学校週五日制実施、教職員の完全週休二日制実施を決定した。 2025年度より大学（院）生によるメンター制度導入を決定した。</p>	<p>⑤概ね達成した</p>
<p><b>2 学力の向上と進路実現100%をめざす</b> (評価指標) 模試の結果向上 進路実現率高水準維持</p> <p>①言語活動の充実など授業の改革を進めるため、教科における研究活動を活性化し、研究授業や相互の授業参観を組織的に行う。</p> <p>②観点別評価を活用し、生徒の学習意欲を高める。</p> <p>③生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を拡充する。そのため学園内外の教育機関・施設等との連携を深める。</p> <p>④基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。</p> <p>⑤大学（院）生によるメンター制度の活用を計画する。</p> <p>⑥3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部・学年・コースが連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。</p>	<p><b>模試の結果、教科、コース等で分析行った。中学校、高校特進コースはベネッセの方にも分析を仰いでいる。</b> <b>進路実現率は99.1%</b> <b>(昨年度比+0.6ポイント)</b></p> <p>①各教科が研究授業を実施。期間を設定して相互の授業参観を行った。新しい学習指導要領に対応した授業が行われているか、定期的に点検を行った。</p> <p>②観点別評価についての検証を行った。授業評価アンケートの設問を観点別評価に則した内容で実施した。</p> <p>③中学校の「10×10プラン」、総合的な学習の時間等。特進コースの「アカデメイア」、他コースを含めての「ポリテクニーク」。幼児教育コースのインターンシップや夏のボランティア（預かり保育）、発表会、造形コンテスト等。進学スタンダードコースのゾーン別体験学習や進スタセミナー等。英語暗唱弁論大会「FIGHTERS」。学園内及び近畿大学、帝塚山大学、森ノ宮医療大学、東住吉森本病院、矢田駅前商店街等との連携。</p> <p>④学習時間調査を実施。教育プラットフォーム、手帳の活用。</p> <p>⑤2025年度からの実施を決定し、実施に向けての準備を進めた。実施他校の視察を行った。</p> <p>⑥当初の予定通りに実施した。</p>	<p><b>学力向上はコースで差がある</b> <b>進路実現率は高い数値を維持した</b></p> <p>①前進した</p> <p>②前進した</p> <p>③前進した</p> <p>④前進した</p> <p>⑤概ね達成した</p> <p>⑥前進した</p>

<p>⑦中高六年一貫教育の強化に努める。</p> <p>⑧国公立大学と関関同立の合格者10名(実数)以上、大阪総合保育大学への進学者10名以上、大阪総合保育大学短期大学部への進学者30名以上をめざす</p>	<p>⑦中学校会議に高校特進コース教員が参加、高校特進コースの会議に中学校教員が参加することにより、相互理解を深めた。 アカデミア・ポリテクニク・FA・ビブリオバトル・自習合宿での生徒交流を図った。</p> <p>⑧国公立大学と関関同立に9名(実数)が合格。大阪総合保育大学に3名進学。 大阪総合保育大学短期大学部に31名進学。</p>	<p>⑦前進した</p> <p>⑧前進できず</p>
<p><b>3 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底</b> (評価指標) 学校教育診断の結果80%以上 欠席・遅刻率の低下</p> <p>①朝の読書活動の充実と活性化を図り、自ら学ぶ姿勢を育成するとともに読解力・表現力の向上にも資する。</p> <p>②年間重点目標として「挨拶」を掲げ、全教職員で指導することにより、生徒の自発的な挨拶を促す。授業規律、服装、欠席・遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基本的な生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。特に欠席・遅刻の減少に努める。</p> <p>③学校行事における生徒の主体的取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を促進する。</p>	<p><b>学校教育診断の結果</b> <b>「校則を守り、規則正しく生活している」</b> <b>中学生85%、高校生88%、教員80%</b> <b>中学生保護者91%、高校生保護者92%</b> <b>欠席・遅刻率</b> <b>中学生は欠席、遅刻ともにやや増加</b> <b>高校生は欠席、遅刻ともにやや減少</b></p> <p>①一年を通じて「朝の読書」を実施。 全校でビブリオバトルに取り組むとともに、代表者が校外のビブリオバトルにも出場。</p> <p>②生徒指導部が中心となり、朝の挨拶を実施。定期的に全教員で登下校指導等を実施。全校全校生徒にネットマナー、薬物乱用防止について外部講師を招き指導。 学年、生徒指導部で欠席・遅刻指導。</p> <p>③当初の予定通り実施した。 学校教育診断での関連項目(「学校行事は、みんな楽しく行えるよう工夫している」、「本校の自治会活動は活発である」、「本校の部活動は活発である」)は高い数値。 (部活動参加率) 中学校92%(昨年度比+3ポイント) 高校60%(昨年度比-4ポイント) (中学校の部活動) 空手道部、テニス部が全国大会出場。体操部、バレーボール部が近畿大会に出場。 (高校の部活動) 空手道部、テニス部が全国大会に出場。バレーボール部、ソフトテニス部、体操部が近畿</p>	<p><b>生徒、保護者、教員ともに達成</b></p> <p><b>欠席率、遅刻率は中高ともに達成できず</b></p> <p>①前進した</p> <p>②やや前進した</p> <p>③前進した</p>

	大会に出場。	
<p><b>4 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上</b> (評価指標) 学校教育診断の結果80%以上 授業評価アンケートの結果</p> <p>①各教科で授業評価アンケートの結果も活用して授業の充実・改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。</p> <p>②新しい生徒指導提要に基づき、生徒の人格や個性を尊重し、社会の中で自分らしく生きることが出来る存在へと成長する過程を支える生徒指導の実践を心掛ける。</p> <p>③すべての教育活動を通じて人権に関する教育の充実を図る。教育を受ける権利の保障、人権が尊重された教育を進めるために、特に、いじめの未然防止に努める。面談などを通じて生徒の状況把握に努め、相談等に丁寧に対応することで生徒と教員の距離を縮める。</p> <p>④体罰、ハラスメントの根絶に向けた取り組みを徹底する。</p> <p>⑤様々な方法で保護者への情報提供に努め、保護者からの相談等に丁寧に対応することで連携を深める。</p>	<p><b>学校教育診断の結果</b> 「授業内容に満足している」 中学生89%、高校生85% 「入学してよかった」「入学させてよかった」 中学生96%、高校生85% 中学生保護者89%、高校生保護者92%</p> <p>①授業評価アンケートの結果を教科にフィードバックした。 授業評価アンケートの設問を観点別評価に則した内容で実施した。</p> <p>②生徒指導部が具体的な指導の中で、「傾聴」を心掛け、部員を中心に教員全体に意思統一を図った。</p> <p>③3年間の計画に基づき、人権HR、人権教育映画、人権講話などを実施。 年3回の定期面談、いじめに関するアンケート調査を実施、いじめ防止対策委員会の開催等でいじめの防止に努めた。 学校教育診断の結果は、中学生が昨年度よりやや低下、高校生は向上した。</p> <p>④生徒面談、教員面談等で情報収集することにより、防止に努めた。</p> <p>⑤教育プラットフォーム、学年だより、HP、年2回の懇談会などで連携を図った。 学校教育診断での関連項目(「学校は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」「学校は、保護者の相談に快く応じている」)は昨年度とほぼ同じ。</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>①前進した</p> <p>②概ね達成した</p> <p>③前進した</p> <p>④前進した</p> <p>⑤前進した</p>
<p><b>5 中学校50名、高等学校230名の定員充足</b></p> <p>①広報活動の「見える化」を図る。</p>	<p><b>中学校32名、高校119名が入学予定</b></p> <p>①中学校訪問、塾訪問の報告書を全教員で共有。 入試対策部・広報室と各コース長を含む教員団との間で情報交換会を実施。</p>	<p><b>中学校・高校ともに達成できず</b></p> <p>①前進した</p>

<p>②中学校及び高校各コースの取り組みを積極的に広報するとともに、学習成果の発表の場の公開に努める。また、生徒募集に有効な新たな取り組みを実行に移す。</p>	<p>②募集イベントにおいて、生徒の学習成果の発表を兼ねた生徒による学校説明、コース説明を実施。 中学校・高校ともに、受験生・保護者対象公開授業を実施。 募集対策として、SNSによる発信を強化。 募集イベント等での活用を見込んで、ゆるキャラを作成した。</p>	<p>②概ね達成した</p>
<p>③部活動において、他との交わりを深め生徒募集に繋げる。</p>	<p>③小学生、中学生を招いての試合、合同練習を実施。 「部活動体験」を実施。</p>	<p>③前進した</p>
<p>④中学生の内部進学率の向上に努める。</p>	<p>④担任以外の教員も生徒との面談を行った。 24名中21名(88%)が内部進学(昨年度69%)</p>	<p>④概ね達成した</p>
<p>⑤入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に全教職員一人一人が強く意識して広報活動を推進する。また、広報活動への生徒の参画を一層促進する。</p>	<p>⑤外部相談会において、他教員の協力を仰いだ。 校内で開催する募集イベントへの生徒参加を強化。 生徒広報部(オープンキャンパスサークル)が募集イベントで活躍。 募集イベントで、ダンス部・空手道部の協力を得た。</p>	<p>⑤前進した</p>

## 2 学校関係者評価

### (1) 組織 学校関係者評価委員会

構成(敬称略)

大阪城南女子短期大学長・菅正隆(委員長)

城南学園小学校長・太田友子

保護者会代表・松尾康世

同窓会代表・森田由利子

地域代表・早苗順一

学校委員(校長、高校教頭、中学校教頭、事務局長、学校評価委員会担当教諭)

### (2) 開催 2025年3月11日(火)

### (3) 評価のために使用した資料

自己評価の結果及び学校評価委員会で使用した資料、学校関係者評価委員会設置要綱

### (4) 内容

- ① 校長及び高校教頭、中学校教頭から、「2024年度 教育の基本方針と取り組みの重点」に沿って、自己評価の結果を報告し、質疑応答と協議を行った。
- ② 協議の内容を事務局で取りまとめた。(主な協議の内容は資料3)

### 3 今後の改善方策（A）

#### 1 学校教育目標のマネジメントサイクルの推進

- 自己評価及び学校関係者評価の結果等をもとに、新年度の学校教育目標である「教育の基本方針と取り組みの重点」を策定し、年度当初に教職員に周知する。
- 学校教育目標を踏まえ、校内各組織が年度目標と実施計画を作成して取り組みを進める。
- 10月末にその進捗状況、2月末に達成状況の報告を求め、それを受けて年度末に学校教育目標の自己評価を行う。このマネジメントサイクルを効果的に運用することにより、高いレベルでの目標の達成をめざす。

#### 2 主要教育課題に対する取り組み

##### (1) 学校の全体（未来）像に関わって

- ①長期的視点とともに中期的視点も持ちながら、学校の将来像を検討する。
- ②キャリアデザインコースを軌道に乗せる。
- ③建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みを充実させる。
- ④一人一台タブレットを活かした教育の推進、業務の改善を行う。
- ⑤生徒への効果的な教育活動実現のための働き方改革を推進する。

##### (2) 学力の向上と進路実現100%をめざす

- ①研究授業や相互の授業参観を組織的に行い、教科における研究活動を活性化する。
- ②観点別評価を活用し、生徒の学習意欲を高める。
- ③学園内外の教育機関・施設との連携によって拡充してきた生徒の体験的な学びを円滑に進めるとともに、学習成果の発表の機会を充実させる。
- ④基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じた指導を充実させる。
- ⑤大学（院）生によるメンター制度を活用し、生徒の学習機会を増やす。
- ⑥進路指導部と学年、コースが緊密に連携して、1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。
- ⑦中高六年一貫教育の強化に努める。
- ⑧数値目標を掲げて学力の向上に取り組む。併せて目標達成のための具体的方策を検討し実施する。

##### (3) 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底

- ①朝の読書の徹底により、読書活動の活性化を図る。
- ②年間目標を掲げて全校で取り組む。欠席・遅刻については学年で数値目標を掲げて減少に努める。
- ③学校行事の企画段階への生徒の参画を進め、生徒の主体的取り組みを促す。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を促進する。

##### (4) 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上

- ①授業評価アンケートの結果を教科、当該教員にフィードバックすることで授業の充実改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。
- ②新しい生徒指導提要に基づいた生徒指導の実践を行う。
- ③すべての教育活動を通じて人権教育を推進する。特に、面談やアンケート調査などによって生徒の状況を把握し、いじめの未然防止と早期発見に努める。また、生徒の相談に丁寧に対応することで生徒と教員の距離を縮める。
- ④体罰、ハラスメントの根絶を目指す。
- ⑤様々な方法で保護者への情報提供に努め、保護者からの相談に丁寧に対応することで、教育方針や教育内容への理解を図る。

##### (5) 中学校及び高等学校の定員充足

- ①広報活動の「見える化」を図る。
- ②中学校および高校各コースの取り組みの広報と、学習成果発表の場の公開を推進する。また、効果的な生徒募集の取り組みについて検討し実施する。

- ③部活動において、他との交わりを深め、生徒募集に繋げる。
- ④全校を挙げて内部進学率の向上に取り組むとともに、内部進学を促進する制度面の検討を行う。
- ⑤入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に、全教職員による広報活動を推進する。また、広報活動への生徒の参画を一層促進する。

## 4 参考資料

### (資料1)

#### 学校教育診断票の結果について

城南未来委員会

昨年十二月に実施いたしました「学校教育診断票」の結果について概略を報告いたします。

##### 【データの回収】

生徒四三四名、保護者四〇八名のデータを回収しました。特に保護者の皆様方からは九三%という高率の回答をいただき、より信頼度の高いデータとなりました。ご協力、心より感謝申し上げます。

##### 【保護者データ】

設問のうち、肯定意見（「よくあてはまる」「ややあてはまる」をあわせた意見、以下同様）が八〇%以上であったのは、中学では一八問中一七問、高校では全問と、全体として非常に高い評価をいただきました。特に、中学で「本校には、他校と異なる城南学園らしい特色や良さがある」が九六%、高校では「学校の雰囲気がよく、生徒は生き生きしている」などが九二%という最も高い肯定意見をいただきました。最も気になる「入学させて良かった」でも、中学で八九%、高校で九二%の肯定意見をいただきました。

一方で、他の設問と比べると肯定意見がやや少ない結果だったのが、中学では「学校は、進路に関する情報を適切に提供するなど、生徒の進路実現に積極的に取り組んでいる」の七五%、高校では「先生はいろいろな問題を見逃さず対応している」が八一%で、今後、さらなる改善を検討しなくてはならないと感じております。

##### 【生徒データ】

高校では、全体として肯定意見が八〇%以上となったのは一八問中一七問で、昨年度の一六問に続き高評価となりました。なかでも、「本校の部活動は、活発である」「学校は、進路に関する情報を適切に提供するなど、生徒の進路実現に積極的に取り組んでいる」は肯定意見が九五%に達しました。

中学は、一八問中一二問で肯定意見が九〇%以上で、昨年度の一五問には及ばずながら、高い評価となりました。「本校には、他校と異なる城南学園らしい特色や良さがある」の九七%を筆頭に、「自分のクラスは楽しい」「学校行事は、みんなが楽しく行えるように工夫している」「入学してよかった」が九〇%台半ばの非常に高い評価でした。

一方で、中学で「生徒は校則を守り、規律正しく生活している」などが八五%、高校で「本校の生徒指導の方針は適切である」が七九%の肯定意見で、他の設問と比較して評価が高くありませんでした。

\* \* \* \*

今回の「学校教育診断票」で得られた結果を、学年・校務分掌・コースなど各部門で慎重に検討し、また過年度のデータを照合しながら、生徒の動向把握に教員全員で努めて参ります。そして、より高い信頼を得られる教育環境の整備に力を注いで参りたいと思っております。

保護者の皆様におかれましては、本校のこの姿勢にご理解をいただき、今後も変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(2025年2月発行の校報『城南第89号』より転載)

### (資料2)

#### 2024年度 教育の基本方針と取り組みの重点

## I はじめに

学校教育の目標は、生徒が将来、社会人として自らの使命を果たし、自らの幸福を実現できるよう、その基盤となる学力と健康な心身、さらには真に自立的な態度を育成するところにある。これは、本校創立者の設立の思いである「社会で活躍できる女性の育成」という言葉に集約される。本校の建学の精神である「自主自律」「清和気品」は、教育目標を達成するための具体的な指針である。われわれの教育活動が成果を上げるためには、本校の特色を鮮明にして全教職員が同じ教育目標「社会で活躍できる女性の育成」を共有することが重要である。よって本年度の基本方針と取り組みの重点を次のとおり策定する。

## II 基本方針と目標

1. 将来、一人ひとりが社会的使命を果たせる生徒の育成を図る。そのため、中学校においては「10×10プラン」を推進する。高校においては各コースの特性を全面的に生かして多様な生徒に対応した教育を実践し、学力の向上と進路実現100%をめざす。
2. 生徒にとって生涯の基軸となる、よき生活習慣を身につけさせる。そのため「自主自律」の態度を育成するとともに、「清和気品」のマナーを徹底させる。
3. 教職員が相互に高め合う職場づくりを進め、授業の充実改善に努める。また、明るい学校づくりに取り組み、生徒・保護者の「学校満足度」を向上させる。
4. 全教職員が丸一となって広報・募集活動を強く推進し、中学校及び高等学校の定員充足をめざす。

## III 取り組みの重点

### 1. 学校の全体像に関わって

- (1) 10年先を見通した学校の将来像について検討する。
- (2) キャリアデザインコースの起ち上げに向け準備を進める。
- (3) 建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの充実に努める。
- (4) 一人一台タブレットを活かした教育を推進するとともに、業務の改善を図る。
- (5) 生徒への効果的な教育活動実現のための働き方改革を推進するとともに、学校週五日制の導入を早期に実現する。

### 2. 学力の向上と進路実現100%をめざす

- (1) 言語活動の充実など授業の改革を進めるため、教科における研究活動を活性化し、研究授業や相互の授業参観を組織的に行う。
- (2) 観点別評価を活用し、生徒の学習意欲を高める。
- (3) 生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を拡充する。そのため学園内外の教育機関・施設等との連携を深める。
- (4) 基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。
- (5) 大学（院）生によるメンター制度の活用を計画する。
- (6) 3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部・学年・コースが連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。
- (7) 中高六年一貫教育の強化に努める。
- (8) 国公立大学と関関同立の合格者10名（実数）以上、大阪総合保育大学への進学者10名以上、大阪総合保育大学短期大学部への進学者30名以上をめざす。

### 3. 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底

- (1) 朝の読書活動の充実と活性化を図り、自ら学ぶ姿勢を育成するとともに読解力・表現力の向上にも資する。
- (2) 年間重点目標として「挨拶」を掲げ、全教職員で指導することにより、生徒の自発的な挨拶を促す。授業規律、服装、欠席・遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基本的な生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。特に欠席・遅刻の減少に努める。



- (3) 学校行事における生徒の主体的な取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を促進する。

#### 4. 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上

- (1) 各教科で授業評価アンケートの結果も活用して授業の充実・改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。
- (2) 新しい生徒指導提要に基づき、生徒の人格や個性を尊重し、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと成長する過程を支える生徒指導の実践を心掛ける。
- (3) すべての教育活動を通じて人権に関する教育の充実を図る。教育を受ける権利の保障、人権が尊重された教育を進めるために、特に、いじめの未然防止に努める。面談などを通じて生徒の状況把握に努め、相談等に丁寧に対応することで生徒と教員の距離を縮める。
- (4) 体罰、ハラスメントの根絶に向けた取り組みを徹底する。
- (5) 様々な方法で保護者への情報提供に努め、保護者からの相談等に丁寧に対応することで連携を深める。

#### 5. 中学校及び高等学校の定員充足

- (1) 広報活動の「見える化」を図る。
- (2) 中学校及び高校各コースの取り組みを積極的に広報するとともに、学習成果の発表の場の公開に努める。
- (3) 部活動において、他との交わりを深め、生徒募集に繋げる。
- (4) 中学生の内部進学率の向上に努める。
- (5) 入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に全教職員一人一人が強く意識して広報活動を推進する。また、広報活動への生徒の参画を一層促進する。

#### (資料3)

#### 2024年度 学校関係者評価委員会 主な協議内容

自然と会釈や挨拶ができ、困っている人を見れば助けるなど、この数年で、中高生徒の雰囲気、表情、振る舞いがすこぶる良くなった。建学の精神に基づいた教育の浸透、明るい学校作り等に向けての様々な教育活動の成果の表れであるのはもちろんのこと、高圧的な指導から傾聴を指針とした寄り添う指導への転換がその大きな要因であろう。また、これらの好転を裏付けるのが、学校教育診断案アンケートの結果である。生徒、保護者の評価は全体として向上し、非常に高い評価となっている。本来的に厳しめの評価を行う教員の評価も向上しており、目に見えた大きな好転が起こっていることが推察される。

にもかかわらず、生徒募集が改善できていないのが悔やまれるところである。生徒たちが非常に満足している城南の良さが上手く受験生、その保護者に伝わっていないのではないか、と思われる。見せ方、伝え方にもう一工夫ほしいところである。頼もしいことに、保護者も同窓会も生徒募集に力を貸したいと思う気持ちが非常に強く、このあたりの活用も大いに考えていくべきであろう。

次年度90周年の節目に学校週五日制を導入することで学習の効率化を促すとともに、休日の過ごし方を考えさせることで校訓の一つである「自主自律」の実現を促していこうとする方針は大いに期待できるところである。

強い共学志向、少子化、南大阪の人口減など、客観的要素による募集上のハンディがあることは否めないが、より教員の結束を高め、さらなる教育の質の向上を目指し、生徒・保護者の支持をバックボーンに募集上の回復に尽力すべきである。